大阪・関西万博の環境影響評価

写真は昨年 12 月に公表された『2025 年日本国際博覧会基本計画』70 ページに記載の「会場整備スケジュール」。2020 年 12 月現在の予定、(　) 内は実施主体。いちばん下の博覧会協会が実施する環境影響評価は、2020・21 年に「方法書・準備書・評価書」と記してある。

一昨年に方法書に対する意見書を提出したが、準備書はまだ出ていない。私も参加している市民団体が、協会に問い合わせたが、いつ提出するか教えられないという回答。博覧会協会は情報提供に消極的だ。なお、「基本計画」最後に事業推進計画スケジュールが記載されているが、会場整備などに「環境影響評価」という項目は一切ない。博覧会協会にとって、環境影響評価などは重要視されていないのだろう。

愛知万博の経験を考えると、大阪・関西万博の環境アセスメントに疑問なことが多い。会場建設工事は当然、環境影響評価の結果が出てから実施されるはずだ。万博会場予定地の夢洲では 4 月 26 日夕方の NHK ニュースの写真のように、大規模な建設工事が進められている。これは大阪市土地造成工事（大阪港湾局）による埋立・盛土 30ha なのだろうか。2021 年度までの予定だが、これも万博の環境影響評価と関係するものだ。博覧会協会が 2022 年から実施予定の「会場内基盤・インフラ整備」などの工事だけが、環境影響評価の対象なのだろうか。

愛知万博の『2005 年国際博覧会公式記録』によると、その第 5 章は「環境配慮と継承」であり、環境影響評価にも力を入れてきたことがわかる。

環境影響評価要領は、通商産業省（当時）が設置した 2005 年の国際博覧会に係る環境影響評価手法検討委員会が取りまとめた報告書（平成 10 年 3 月 24 日）に示された以下の考えを踏まえたものであるが、環境影響評価法の全面施行（平成 11 月 6 月）を先取りする先駆的な取り組みでもあった。

① 環境影響評価法の趣旨を先取りする新しい環境影響評価のモデルを目指す。
② 愛・地球博の「人と自然の共生」という理念の実現に資する環境影響評価を目指す。
③ 博覧会会場計画策定と連動した環境影響評価を導入する。
④ 地域整備事業に係る環境影響評価との連携を図る。

愛知万博は会場計画・環境問題などにより、途中で会場自体が大幅に変更された。そのため環境アセスメントも中途半端なものになった。大阪・関西万博は愛知万博以上に、環境影響評価に配慮を欠いた環境「アワスメント」になりそうであり注視したい。

（2021 年 5 月 22 日）